

「ミクシィ」離反者急増で利益も株価も半減の危機

実業界

3

The Analytical
Magazine
for Economics

2012

毎月1日発売

昭和27年2月28日第三種郵便物認可
毎月1回1日発行 平成24年3月1日発行 第997号

「シティグループ・ジャパン」

行政処分で色褪せる
“外銀”の看板

- 「しまむら」中国進出で試される本当の実力
- 親会社本体も不正輸出! 「クレハ」に問われる
違法意識



前号では、自律神経の不調と関連した歯やアゴに生じる局所的な痛み（口腔心身症）を例として、当クリニックが目指す「歯科・身体総合医療」についてお話しした。

「歯科・身体総合医療」の治療法の一つとして、頸部（クビ）の特定部位に特殊な光線を照射し、その光線の刺激で、乱れた自律神経のバランスを整え、口腔内の不調は解消されていくというものだ。

口腔内の不調を解消するために、全身的な治療のアプローチとして「歯科・身体総合医療」の有用性を理解いただけたと思うが、口腔心身症の治療が、実は、さらに深刻な全身疾患の「予防」になる、ということについて今回はお話ししたい。

ストレスなどにより自律神経のバランスが乱れ、病気の「サイン」として口腔・アゴなど顔面領域に不調



が出るのが口腔心身症である。

この病気のサインを無視せず、適切な治療を行えば、歯やカラダの不調は、言わば「病気の入り口」のレベルで抑え、解消することができ、治療を行うだけでなく、病気を引き起こす遠因となったストレスフルな生き方や考え方を改めることができれば、先般のコラムでもお話しした「病気を完成させない生き方」の実践にもなり、なお良い。

だが、この病気のサインを無視したり、放置すればアナタのカラダは「病気のドミノ倒し」に見舞われるり

歯科で防げる病気の「ドミノ倒し」

スクが非常に高くなる。過度なストレスは自律神経のバランスを乱し、うつ病やこのブログでお話している口腔心身症などの病気を発症する。病気のドミノ倒しとは、比較的軽症な段階で治療をしないと、さらに治療が困難な重い疾患を、いくつも併発してしまう負のスパイラルを意味する。

- 1、過度あるいは長期間のストレスは、自律神経のバランスを崩す
- 2、自律神経のバランスが崩れると低血流・低酸素・低体温・低代謝などの状態を招く
- 3、その結果、肥満・高血糖・高血圧・高脂血症といったメタボリックシンドロームを引き起こす
- 4、さらに症状が進行すると、糖尿病・脳卒中・認知症・心疾患・腎疾患、そしてガンというように病気のドミノ倒し（病気の深刻化、合併症）が完成してしまうのだ。

病気のドミノ倒しといっても「クスリで治る段階で治せば良い」などと思わないで頂きたい。
「ドミノ倒し」と言うくらい

で、その進行は容易に止められない。脳卒中・心疾患・ガンなどの既往症のある患者さんが、当クリニックにも少なからず来院されるが、そうした皆さんの口の中を拝見すると、噛み締め過ぎによる歯の傾斜や動揺（グラつき）、歯槽骨（歯を支える骨）の変形、難治性の歯周病や、モノを噛む時に使う咀嚼（くわ）筋の緊張などが数多く認められる。

生死にかかわる病気を経験された方に、口腔内やアゴの病気が見られることは、病気のドミノ倒しという負のスパイラルから逃れる術がなく、容易に健康を取り戻せないことを意味する。したがって、口のトラブルを早期に見出すことはとても大切なのだ。

歯の病気を契機に、死に至ることもゼロではないのだ。病気を完成させないためにも歯科・身体総合医療の有用性、その予防的役割を皆さんにもさらに知って頂ければと思っ

顎関節症
ドライマウス
舌痛症
ストレスは見える！
すべては「噛みしめ」が原因だった

高野歯科クリニック
亀井 英志
Kamei Hideshi

気がつくくと「歯を食いしばっている。心当たりの方は、当コラムの亀井医師の著書『すべては「噛みしめ」が原因だった』をお読みいただきたい。*未病、の原因をまとめた良書です。

亀井英志（かめいひでし）

1951年群馬県前橋市生まれ。76年東京歯科大学卒。都立病院歯科口腔外科医を経て、84年より長栄歯科クリニック院長。臨床ゲノム医療学会理事。

